



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：市川修次 副会長：唐澤 稔 幹事：宮下 健 公共イメージ向上委員長：加藤 篤



世界に希望を生み出そう

2023-2024 国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

2023-2024 RI会長
 ゴードン R.
 マッキナリー
 <スコットランド、
 ウェストロージアン>



第1700回記念例会 令和6年5月28日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 真実を求めて 鈴木一比古ソングリーダー



■ 会長挨拶 市川修次会長



先ほどの委員会報告で祝賀会の太鼓の演奏の話をしてしましたが、あの僧侶の皆さんは真言宗の豊山派の僧侶との事でした。私は真言宗の智山派という派の山伏の修行をやった事がありますのでその話をさせていただきます。

30年ほど前の話です。真言宗というのはいくつもの派がありますが、そのひとつの智山派です。上田の武石にMというお寺があります。30年前は武石村でしたが、今は亡くなったその和尚さんと仕事の関係で知り合いになり行き来しているうちに山伏の修行に行くという話になりました。当時の我社の社長はこのクラブにも居られた小澤一さんでしたが山伏の修行に行く話をしたら「何～」と言われたのですが、しかし当時小澤一さんは「やりたい研修何でも受けて良い」という事を言っておりましたのでその話をし、許可をもらい一週間ほど行ってきました。

智山派の本山は京都の智積院でその系列の寺院にはそうそうたる寺院がありますが、その中の和尚さん達に交じって修行をしてきました。智積院から奈良の大峰山に行き大峰山に登って山伏の修行をするのですが、修行の話をしているといくら時間があっても足りなくなるので修行が終わった後の話をさせていただきます。智積院は弘法大使が亡くなった6月15日に「青葉まつり」というお祭りがおこなわれます。その日に合わせて修行が終わって智積院に戻ってきますと、バスを降るとその場は青葉まつりの大護摩祈祷の場で廻りには信者の皆さんですとか観光客の中に降り立ったわけです。それで信者の皆さんが私達山伏に向かって手を合わせて拝んでいる訳です。お護摩祈祷が始まりますと廻りの人達からバッグですとか手荷物を渡されて厄を落とす、私もその恰好なものですからやってしまった、そうしたらやる前の作法があるそうで、私は全くその事を知らないものですから廻りの人達からちゃんとやったのか？と言われ帰ってから大変だよと言われまして、帰ってきてから本当に大変で、特に廻りで交通事故を自分が引き寄せているように多く事故が起きました。一度は目の前のマイクロバスが事故を起こしたのですが、その時にこのバスは事故を起こすという予感がして車間を空けて、その通りにそのマイクロバスは事故を起こし人が亡くなるという経験をしまして、自分が引き起こしてしまったというか予知したというか、自分が怖くなってしまったのですが、人間の不思議なというか自分達でも認識していない能力が自分達にはあるんだなという事を経験しました。今はそういった能力は消え失せてしまいました。

■ ニコニコボックス

- ◆市川修次 先日の分水 RC50 周年式典への大勢の皆さんの参加ありがとうございました。今日は馬場さんの卓話です。宜しくお願い致します。
- ◆宮下健 本日は伊那中央 1700 回記念例会です。馬場さんの“情熱”の卓話を楽しみにしております。先日の分水ロータリー 50 周年式典では式典中、私を含め爆睡だった皆さんは、しっかりと聞いて下さい。
- ◆松田靖宏 馬場会員、1700 回記念の卓話よろしくお願ひいたします。
- ◆田中洋 19日の分水RCの50周年記念式典、大勢の皆さんで参加し盛大にお祝いすることができました。お疲れ様でした。更に絆が深まったことを実感しました。次年度はお迎えする立場になります。楽しく頑張りましょう。
- ◆井上修 先のゴルフ、力以上の幸運に恵まれダイヤモンド・銀・銅・鉄と取れました。全てお返しします。次回は実力で、今回取れなかった金を5つ取ります。
- ◆市川修次・伊澤和男 R6年第6回ゴルフコンペで優勝・準優勝！

■ 幹事報告 宮下健幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・5月19日（日）～20日（月）分水RC創立50周年記念式典参加と親睦旅行の報告 市川修次会長

親睦旅行を兼ねた分水ロータリークラブの 50 周年式典では 20 名の参加という事で分水の皆さんも大変喜んで頂きました。式典は新潟県の殆どのクラブから参加されており約 180 名という規模で盛大に行われました。記念講演は大河津分水に勤務されている樋口さんという方の「大河津分水の果してきた役割」についての講演で、この方は三峰川にも非常に興味を持たれておりいつかは伊那に来たいと話をされておりました。祝賀会では真言宗の僧侶の皆さんの迫力ある太鼓演奏があり、又、二次会では分水の皆さんと盛大に盛り上がりました。翌日は刃物工場を見学等して昨年と同じく、田中角栄さんの生家を通って帰ってまいりました。

・5月22日（水）上伊那グループ次年度会長・幹事会の報告 熊谷健会長エレクト



5月22日水曜日、午後6時15分から駒ヶ根のグリーンオックスにて第1回上伊那グループ次年度会長・幹事会が開催され、参加してまいりました。おいしいお肉とワインをいただけてきました。

スケジュールの打合せをしましたが、伊那中央ロータリークラブでは、

- ・2024年9月3日 ガバナー補佐事前訪問
- ・2024年9月17日 ガバナー公式訪問
- ・2024年12月17日（年末家族会） ガバナー補佐第3回訪問
- ・2025年4月22日（創立記念例会） ガバナー補佐第4回訪問

と決定しました。なお、上伊那グループIMは、2025年3月9日日曜日を予定していますので、皆さん日程に入れておいて下さい。

・「ロータリーの友」5月号紹介 唐澤知子会員



これからロータリーの友5月号の紹介をいたします。横組みの方からまいります。巻頭ページはRI会長のメッセージです。タイトルは「持続可能な変化の兆し」。何が変化したのか？それはメンタルヘルスに関する取り組みについてです。2023年1月に会長が初めてこの問題について発信したところ、これまでに何十件ものメンタルヘルスプロジェクトが立ち上がりました。これらこそが変化の兆しであり、今後「世

界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生む」ことが形になるだろうと述べています。翻訳の文章はちょっとわかりにくいですね。

1 ページめくりますと、今月の特集、その1です。

ロータリーの青少年育成を支援するプログラムはたくさんありますが、今月は RYLA(ライラ) についてです。ライラは、リーダーシップスキルと人格を養いながらロータリーについて学ぶ集中研修プログラムです。このライラが茨城と大阪北部でそれぞれ開催されまして、こちらについてのレポートです。茨城県水戸市では「VUCA(ブーカ) の時代をどう生きるか」と題して行われました。また、大阪北部では「原点回帰から未来行動へジャンプ!」と言うテーマで、こちらは2泊3日で開催されました。具体的にどんなことをやったのか、レクチャー、研修、ワークショップなどタイムスケジュールに沿って記載されています。特に大阪では若者に加えて、パパママロータリアンも参加し、大きな学びがあったと報告されています。我々ロータリアンはこのように青少年と接する機会が多くあるわけですが、このような時適切な行動が取れるよう、青少年に接する際の行動規範を定めています。次のページでは、想定される具体的な場面で、どんな行動が OK でどんな行動がダメなのか、実際の例を挙げて解説しています。とてもわかりやすくまとめられています。ぜひご一読ください。

次のページは第2の特集、パキスタンについてです。なぜパキスタンなのか？ロータリークラブではポリオ根絶を目指して多くの活動をしており、野生型ポリオ根絶まで二カ国を残すところまでその成果が上がっています。まだ根絶できていない2カ国のうちの1つがこのパキスタンなのだそうです。ここでは、パキスタンの国名・国旗、風土、文化・娯楽について書かれています。そして次のページからはこの国におけるポリオ対策についてです。パキスタンでは昨年6件の症例報告がありました。パキスタンはイスラム教の国。このイスラム教には禁忌(ハラーム)と許可(ハラール)がある、と聞いた方は多いのでは？ポリオワクチンがハラームであると言う誤解や偏見が根強く残る中で、子供たちの健康を守るための活動が続けられ、ワクチン接種率が96%に達した地域も出てきたそうです。一方、この活動を行っていた妊娠6ヶ月の女性がぬかるんだ道で転び死産となってしまったり、ポリオ根絶と教育に献身的に取り組んでいた男性、この方はロータリアンだったそうです、がテロの犠牲となってしまったり…。たくさんの悲劇を経験しながら、パキスタンではポリオ根絶への活動が続けられていることが綴られています。この特集は来月も引き続き行われ、来月は日本との関係等についても語られるとのこと。楽しみですね。

後半では縦組みの方から、一番最初の記事をご紹介します。と思います。

「小坂康之 サバ缶宇宙へ行く 地産地消から地産地翔へ」と言う記事です。

この小坂さんと言う方は高校の先生で、2022年10月に行われた福井のロータリーのIMで基調講演をされていて、これはその時の講演をまとめたものです。この小坂先生、神奈川育ちなんですが、若狭の海に惚れて2001年に福井県立小浜水産高等学校に着任したところからお話が始まります。この小浜水産高等学校は日本初の水産高校だったわけなんですが、10年後をめぐりに廃校が決まっていたそうです。なので、教員のモチベーションは低かったし、子供たちも荒れていました。先生は何か子供たちを学びの世界、面白い世界に連れて行くことができないかと考えて、子供たちを現場に連れて行くことにしました。すると教室では居眠りしていたような子が本当によく動き、前のめりになって魚を並べる。漁師さんが「捨てる魚何とかできへんか。地域の食材を地域で食べさせたいんやけど」と言うと、子供が「おいちゃん、何か作ってくるわ」と請け負って、小魚をとりあえず煮てエキスを取り、フリーズドライにしてお茶漬けを作ってみたりしたそうです。でも、これは信じられないくらい、ものすごくまずいものが出来上がった。最初はなかなかうまくいかなかったようです。でもこの高校の歴史をひもといてみると、明治29年に「若狭缶」と名付けた缶詰やかまぼこ、ちくわを作り、天皇肝いりの水産博覧会へ企業と一緒に堂々と出店していたことがわかりました。地域の課題を外に出て行って解決する、子供たちの力で地域を活性化する、と言うことを明治の時代から行っていた学校だったわけです。このことに先生は大変励まされました。そして、課題研究の教育を突き詰めようと決意をされ、いろいろな活動をしていきました。その中にタイトルにあるサバ缶も作っていたのです。この取り組みの過程では、地域のロータリークラブの協力もありました。

また同じ頃 HACCP(ハサップ) と言う非常に厳しい食品衛生管理法の取得にこの高校が成功します。HACCP は NASA が開発した宇宙食を作る食品衛生管理法でもある。そんなことから生徒が「先生、私らのあのサバ缶、HACCP を活用すれば宇宙食にできるんちゃう？」と言い出しまして「鯖街道届け国際宇宙ステーション」と題して研究が始まりました。こうして生徒が育ち、水産高校を見る目も変わり、教員も変わった。学校の雰囲気も良くなり、教職員も頑張ってきたし、地域も応援してくれるようになった。こんな変化があつて廃校と決まっていたこの水産高校は、廃校ではなく閉校、県立若狭高校と言う進学校に海洋科学科

として統合されることになりました。決まっていたことが変わったんですね。新しくできた海洋科学科の目標設定は大論争を経て「自ら調べ、じっくり考えることを主体的に取り組む子供を育てよう」に決まりました。この大論争の内容は、6 ページの下段に詳しく書かれていますので、ぜひ読んでみてください。

水産高校時代の探究活動のバトンが渡せることになり、サバ缶を宇宙食にと言う探求が続けられることになりました。とは言っても、生徒が主体的に製品開発できる授業を計画するとか、生徒主体の授業内容やカリキュラムの改善をするのは簡単なことではありませんでした。また缶詰開発も苦勞の連続でした。生徒の笑顔、主体的で前向きな姿勢、自分たちの地域のため社会のため、そして何より自分たちの学びが楽しいので目を輝かせながら取り組む姿、そういったものに励まされ、長い時間をかけて、ついに 2018 年 11 月 1 日、このサバ缶は、JAXA の定める宇宙日本食に認証され、常食として提供されることになりました。申請書は何百ページにもおよび、延べ 60 人の生徒が研究活動を行い、約 300 人の生徒が缶詰製造には関わっていたそうです。

高校の再編成は、この伊那谷でも行われる事です。この地では概要が既に決まっておりますが、このような例を読み色々と考えさせられました。皆さんもぜひご一読ください。

以上で私の紹介は終わりです。ありがとうございました。

■ 出席報告 会員数48名 出席免除会員5名 長欠会員1名 本日出席者29名 事前メイク0名
出席率69.05% 前回出席率 修正なし

■ 記念卓話 馬場秀則会員



1700 回記念卓話ということでロータリーの歴史と事業の話をしたと思います。ロータリークラブはポール・ハリスが様々な職業人が集まって信用関係を築きたいとの思いで 4 人のグループで集まったというのが始まりです。一緒にいるチェスリー・ペリーが RI を作った人でアメリカの 16 のクラブを一つにしてポール・ハリスを会長にしてチェスリー・ペリーは幹事、事務総長を 32 年務めた方です。その方の尽力で東京ロータリークラブが発足した歴史があります。

日本のロータリークラブは米山梅吉さんが創設したわけですが、アメリカのダラスで初の日本人ロータリアンの福島喜三次さんと大正 9 年に日本に帰還した際にダラスの会長から日本にもロータリークラブを作りたいと言われ、米山さんと福島さんが話し合っただけで大正 9 年に日本で東京ロータリークラブ 24 名で発足しました。

当時は水曜日に月 1 の例会で出席も良くなかったようですが、大正 12 年の関東大震災を機にチェスリー・ペリーが各クラブにお願いして現在のお金で 140 億円の援助をしたことで、東京ロータリークラブも週 1 の例会を行うようになりました。その後ロータリークラブも増えて伊那中央ロータリークラブも愛知県と長野県がエリアの第 260 地区として発足しましたが、RI の規定で 40 クラブ 2000 人の会員で 1 地区が出来るため長野県と愛知県を分けることとなったものの、当時は 36 クラブしか無かったので 4 クラブ増やすために伊那市に伊那とは別に伊那中央が出来たのが経緯です。

私は青年会議所を作ったり竜東青年会を作りました。当時はうどん販売や野菜販売で得た収入を一晩で使い切ったりしましたが、地域の発展のために尽くしていると思っています。青年会議所では当時の委員長がサッカースクールを作るということでそれに関わったり伊那まつりに参加したりと当時の青年会議所は色々やっていた気がします。その後ロータリークラブに入会するわけですがチャーターメンバー 31 名で始まり、現在も残っているのが 5 名です。事業としては現在も行われている地区大会、支援留学生交流、インターアクト交流などを行いました。

以上で卓話を終わります。

日本のロータリー創業者と建設者



米山梅吉
初代東京RC会長



福島喜三次
日本人初のロータリアン

大正12年関東大震災が起り、RI事務局長のチェスリー・ペリーが、各ロータリークラブに連絡し当時のお金で約140億円の義援金が届く

青年会活動



狐島青年会



竜東青年会親睦旅行



竜東青年会開校展打合せ

狐島「若駒会」



伊那中央ロータリー誕生



第1回例会(創立総会)

支援留学生事業



支援留学生検討委員会



目録贈呈

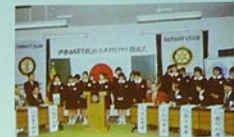


卓豪(ソン ジャンキウ)君
七課程1年(韓国)



承建(カン スンユル)君
七課程1年(韓国)

伊那西インターアクト認証状伝達式



■ 点 鐘

13:30

次回例会

6月4日(火) 点鐘/18:30 場所/ JA 上伊那フラワーパレス
・伊那ロータリークラブとの合同夜間例会